

【施設状況】

グループ名称	もんぜんぷら座こども広場(じゃん・けん・ぽん)									
指定管理者名	特定非営利活動法人 ながのこどもの城いきいきプロジェクト					法人番号	6100005002075			
所管課	主	117000	保育・幼稚園課	副						
構成施設	もんぜんぷら座こども広場(じゃん・けん・ぽん)									
施設分類	06	保健福祉2型			施設利用者圏域	01	地域施設	利用制適用区分	01	代行制
施設概要	床面積860㎡ 遊び場、活動室、相談室、会議室、お昼寝室、授乳室、おむつ替えコーナー、こどもトイレ、親子トイレ(車いす対応)、受付、事務室									
施設設置目的	乳児及び幼児とその親子の子育てに対する悩みや不安を解消し、もってそれらの者の福祉の増進を資するため、子育て支援の拠点施設として設置する。									
基本方針等	指定管理者の創意工夫に基づいた管理運営により、質の高いサービスを利用者に提供するとともに、地域に根差した施設となることを目指す。									
主な実施事業	①子育て中の親とこどもの交流に関する事業 ②子育てに関する相談 ③子育てグループ等の育成 ④子育てに関する情報提供 ⑤遊びに関する指導助言 ⑥子育て情報誌の発行 ⑦子育て講座イベントの開催 ⑧ホームスタート事業 ⑨利用者支援事業 ⑩その他子育て支援に関すること									

【項目評価基準表】

評価	評価基準
5 (優れている)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上で、指定管理者のノウハウや努力等によるところが特に大きい
4 (良い)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上
3 (普通)	・協定、事業計画が予定どおり実施された
2 (劣る)	・協定、事業計画の一部が予定どおり実施されない ・管理運営の一部において、市の指導が必要
1 (悪い)	・協定、事業計画が全て実施されない ・管理運営の全てにおいて、市の指導が必要 ・市の指導を受けてもなお、全く改善が図られない

【評価項目】

1 指定管理者の健全性

指定管理者名	特定非営利活動法人 ながのこどもの城いきいきプロジェクト	当該指定管理者の 指定回数	4 回	
指定期間	令和4年4月1日 ~ 令和9年3月31日	5年	当該指定管理者の 管理運営開始日	平成18年4月1日
指定 管理 者の 健 全 性	施設の設置目的や市が示した基本方針、また、自ら提案した内容に沿った管理運営であったか。 また、団体の財務状況や組織体制は、管理運営実績のある他施設での管理運営状況も踏まえ、良好で、健全か。			評価
	特記事項 (問題等があった場合に、 その内容等を記入)			4

2 施設の有効活用

施設利用状況 (利用者数、件数、稼働率など)		利用区分等	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	対前年比	評価
		利用者数	人	37,867	17,017	17,412	23,819	137%	
		(内 出張広場参加者)	人	1,266	347	325	572	176%	
		新規登録乳幼児数	人	1,765	498	673	737	110%	
		専門家相談人数	人	663	323	310	321	104%	
		子育てコンシェルジュ相談数	件	908	2,999	3,483	3,299	95%	
		ホームスタート訪問家庭数	件	60	58	59	96	163%	
								#DIV/0!	
<p>(特記事項) ホームスタート事業は、アウトリーチ型支援の強みを生かし、コロナ禍の子育て家庭へのサポートとして有効だった。母親が夫以外に大人と話をする機会がなかなか持てないという中、ビジターが訪問することで孤独感の解消につながった。訪問家庭数は昨年より大幅に増加し、それに伴い訪問回数も増加した。 利用者支援事業(子育てコンシェルジュ)は、年々周知され様々な相談に応じた。コロナ禍であったため対面による相談数は伸びなかったが、電話での相談が増えた。</p>									
事業実施内容	区分	協定内容・指定管理者提案			追加事業、未実施事業及び未実施の理由				
	市指定事業	① 子育て中の親とこどもの交流に関する事業 ② 子育てに関する相談 ③ 子育てグループ等の育成、 ④ 子育てに関する情報の提供 ⑤ あそびに関する指導及び助言 ⑥ 子育て情報誌の発行 ⑦ 子育て講座、イベントの開催 ⑧ ホームスタート事業 ⑨ 利用者支援事業(子育てコンシェルジュ) ⑩ その他子育て支援に関すること			こども広場 ・令和4年4月1日～17日まで新型コロナウイルス感染拡大のため相談業務を除き、休館。				
	自主事業	・講座の開催 ① プレママ・プレパパのためのペアレンティングセミナー ② ながのわくわくパパ講座 ③ 休日マタニティセミナー ・地域と連携した広場の開催 ① ゆりかごの会 ② 子育てサロンピーカーボー(権堂イーストプラザ) ③ サンサン広場(権堂イーストプラザ) ④ あそびましよう(東部保健センター 月2回) ・スタッフ研修			・地域と連携した出張広場は、広場の休館に伴い「ふたごみつご広場」を除き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館中は実施を見合わせた。				
サービス維持・向上の取組み(広報等)	広場の利用は1日を3クールに分け、完全予約制で開館し、イベント等は感染予防をしながら、参加人数を制限し実施した。また、感染状況により来館組数を段階的に増やすなど、コロナ禍でも来やすい状況を作り工夫し喜ばれた。さらに令和5年3月13日からは、利用者ニーズを捉え、より利用しやすいよう1クールの時間を伸ばし2クールにし参加組数も増やし開館した。週刊長野に「子どもも親も生き生きと」を寄稿し、子育て支援の情報を月1回提供								

3 利用者評価

利用者評価		区分	内容	評価
利用者評価	利用者要望把握	(1) 利用者要望把握方法	利用者アンケート	4
		(2) 調査、会議等の内容	・広場利用の保護者向けに利用者アンケートを実施(令和5年3月中旬から末まで)121件収集 ・ホームスタート事業利用者アンケート:利用の前後にアンケート調査し、充足度を調査(調査対象家庭数80家庭) ・講座等アンケート:各講座終了時にアンケート調査、更に一人ひとりから感想や要望等の聞き取り(散髪講座・パパ講座等) ・施設内に「利用者の声コーナー(投書箱)」設置し、利用者の声を把握するようにした。	
		(3) 調査、会議等の結果	【こども広場】 ・利用者アンケートでは、来館者の生の声として受け止め、日々の運営に生かしている。 ・利用者からの投書には、一人ひとりに返答するようにしている。 ・講座等のアンケート結果は、次回の講座運営に生かした。 【ホームスタート・講座等】 ・運営の参考や講座のニーズの参考として利用	
	利用者からの要望・苦情等	(1) 良好とする評価	【こども広場】 ・利用者アンケートの結果、スタッフの対応に対する評価は、満足・まあ満足を合わせ100%と好評だった。 ・毎日、おもちゃなどを丁寧に消毒などしていただき、ありがたい。 ・他の家族と交流の場となっている。 ・人と話すことが少ないので、スタッフが話したり相談に乗ってくれるのはありがたい。 ・平等に声がけて優しく対応してくださる。 【ホームスタート】 ・利用終了した80家庭の内96.4%が満足と回答	
		(2) 苦情・改善等の要望事項	【こども広場】 ・もっと長い時間利用したい。時間の区切りがなくなると嬉しい。 ・人数制限を無くしてほしい。 ・予約制を無くしてほしい。	
		《対応措置》	・常にコロナの感染状況に応じて開館方法について検討し、協議を重ね、利用しやすいように随時変更した。令和5年3月13日からは、利用時間や人数制限等を大幅に緩和したことにより、好評を得ている。また、飲食についても子どものみ可とした。 ・予約制については、新型コロナウイルス感染症が5類になる時期に合わせ、無くす方向で検討している。	

事業収支 (単位:円)	指定管理者収支(令和4年度)				市の収支				評価
	年度計画額		収支実績額		令和4年度決算		令和3年度決算(前年度)		
	項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額	
収入	利用料金		利用料金		使用料		使用料		歳入
	指定管理料	28,271,000	指定管理料	28,271,000	雑(納付金)		雑(納付金)		
	委託料	566,000	委託料	381,720	行政財産目的外使用料		行政財産目的外使用料		
	販売収入等		販売収入等		貸付料		貸付料		
	その他収入	80,000	その他収入	243,999	その他		その他		
	広告料	100,000	広告料	152,115	国・県補助金	11,728,000	国・県補助金	12,054,000	
	補助金	590,848	補助金	590,848					
	計	29,607,848	計	29,639,682	計	11,728,000	計	12,054,000	
支出	人件費	22,347,000	人件費	20,983,683	指定管理料	28,271,000	指定管理料	23,974,000	歳出
	設備管理費	385,000	設備管理費	412,131	委託料		委託料		
	備品購入費	300,000	備品購入費	441,560	需用費		需用費		
	修繕費		修繕費	70,000	役務費		役務費		
	光熱水費		光熱水費		使用料・賃借料	15,996	使用料・賃借料	1,806	
	事業費	3,311,000	事業費	3,796,051	修繕費		修繕費		
	事務経費	1,364,848	事務経費	1,347,777	工事請負費	424,600	工事請負費		
	本社経費	700,000	本社経費	700,000	備品購入費		備品購入費		
	その他	1,200,000	その他	1,306,200	その他		その他		
	補助金		補助金		補助金	590,848	補助金	1,078,339	
計	29,607,848	計	29,057,402	計	29,302,444	計	25,054,145		
自主事業	収入		収入						
	支出		支出						
	自主事業損益	0	自主事業損益	0					
損益		0		582,280	差引	-17,574,444		-13,000,145	
人件費比率【人件費(賃金等)／令和4年度指定管理者事業支出】(支出に占める人件費の割合)								72.2%	
本社経費が、計画額と実績額で異なる理由									

5 管理運営全般 ※すべて☑で、「3」、「4」、「5」とする場合は、評価理由欄に理由を記載してください。

区分	確認内容	チェック欄	評価
職員配置	1 施設管理運営に必要な人員が、適正で有効に配置されているか	☑	4
	配置実績 (うち市内雇用職員数) 運営責任者1人(1)、副責任者2人(2)、チーフスタッフ3人(3)、スタッフ10人(10)、コンサルタント1人(1)、事務スタッフ1人(1) 合計 18人(18人)		
	2 専門性を備えた職員、有資格者が必要に応じて配置されているか		
	3 労働関係法令を遵守し、職員の適正な労働条件を確保しているか		
平等利用	4 職員の資質・能力向上を図り、施設を適切に運営するための取組みや研修がなされたか	☑	4
	1 特定の団体や個人に偏らない、公平・公正な、透明性の高い運営がなされたか		
経理	2 使用許可、減免等の事務手続きが適切に行われたか	☑	4
	1 施設の管理運営に係る収支の内容や、指定管理料、利用料金等の取扱いは適切に行われたか		
施設・備品の維持管理	2 収支内容等を記載した帳簿を整備しているか	☑	4
	1 必要とされている保守、点検、清掃、保安、警備等、必要な維持管理業務が確実に実行されたか		
セルフモニタリング等	2 備品はⅠ種、Ⅱ種を明確にし、それぞれ台帳、目録等を整備の上、管理が適正に行われたか	☑	4
	1 日常的、定期的に業務の点検、監視が行われたか		
	2 事業計画・報告書、予算書・決算書や、施設の利用状況などの定期報告、点検・検査結果報告などが遅滞なく提出されたか	☑	4

区分	確認内容	チェック欄	評価	
危機管理体制	1 危機管理マニュアルなどが整備されているか	<input checked="" type="checkbox"/>	3	
	2 危機管理マニュアルなどの内容が職員に周知されているか			
	3 常に、日常の事故防止などに注意を払っているか			
	個人情報保護	1 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切であったか		<input checked="" type="checkbox"/>
	防犯、防災対策	1 防犯、防火などの対策、体制が適切であったか		<input checked="" type="checkbox"/>
		2 防災訓練など、必要な訓練が実施されたか		
緊急時対応、体制	1 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか	<input checked="" type="checkbox"/>		
	2 必要な保険に加入するなど、利用者などからの損害賠償請求への対応措置が講じられているか			

7 地域連携

地域連携	協定内容・指定管理者提案	追加された内容、未実施の内容及びその理由	評価
	<p>地域の声を聞く体制や、協働で地域貢献ができる運営であったか。市内雇用や市内事業者から物品を購入する等、地域を活用した管理運営であったか。障害者就労施設等からの物品及び役務の調達に努めたか。</p> <p>・地元商店街主催行事やNPO等の行事への積極的参加(灯明まつり「ゆめ灯り絵展」、ながの子ども・子育て応援フェスティバル、地域まるごとキャンパス2022)</p> <p>・地元業者と協力して子育て講座の開催(散髪講座)</p> <p>・中心市街地の業者と取引し、備品や消耗品等を購入している。</p> <p>・教育機関との連携(長野県立大学健康発達学部こども学科、長野看護専門学校、つくば開成高校)</p> <p>・スタッフはすべて市内雇用</p>	<p>・(株)まちづくり長野と共催で「まちなかリユースマーケット」を権堂イーストプラザを会場に開催。(来場者約100名)</p> <p>・教育機関との連携…清泉女学院大学看護学部助産学専攻、佐久大学信州短期大学部、社会教育実習(立教大学)が新規実施</p>	4

【総合評価】

評価項目	評価	得点	総合評価
指定管理者の健全性	4	8	<p>総合評価</p> <p>指定管理者の健全性</p> <p>施設の有効活用</p> <p>利用者評価</p> <p>事業収支</p> <p>管理運営全般</p> <p>危機管理体制</p> <p>地域連携</p> <p>74</p> <p>----- 基準値</p>
施設の有効活用	4	16	
利用者評価	4	16	
事業収支	3	6	
管理運営全般	4	8	
危機管理体制	3	12	
地域連携	4	8	
合計得点		74	
評価理由	<p>・「指定管理者の健全性」について、地域の子育て支援拠点として設置目的や基本方針を踏まえ、地域や他の機関等と連携した運営がされており、財務状況・組織体制共に健全・良好なため「4」とした。</p> <p>・「施設の有効活用」について、利用者のニーズを捉え、多岐にわたる事業の実施方法を工夫し、コロナ禍での妊産婦家庭、多胎児のいる家庭、長野市への転入者家庭等、子育て家庭への充実した支援が実施できたことから「4」とした。</p> <p>・「利用者評価」について、利用者アンケートにより、全体的に満足度が高かったこと、結果や課題をスタッフ間で共有し、よりよい運営のため常に課題等に真摯に向き合い、努力を怠らない点から「4」とした。</p> <p>・「運営管理全般」について、高い専門性を備えた職員を多く配置し、コロナ禍での制限がある中、様々な工夫を凝らし、利用者へ寄り添った対応ができていない点、また常に衛生管理に細心の注意を払い、来館者が安心・安全に利用できるよう館内の清掃、消毒等適切に実施されている点から「4」とした。</p> <p>・「地域連携」について、スタッフは全て市内雇用、地域主催の行事等への積極的な参加、地域事業者や教育機関との協働・連携により地域を盛り上げ、貢献できた点から「4」とした。</p>		
取組み・改善案等(施設所管課)	前年度からの課題	改善状況	改善案等(改善されていない場合)
	<p>・関係機関と連携し、子育てに不安や心配を抱えている子育て世帯の支援体制を整える。</p> <p>・地域の新型コロナウイルス感染状況に配慮し、利用者が安心・安全に利用できる施設運営の維持。</p>	<p>・地域の子育て支援の中核として、各専門機関との連携により、妊娠期からの途切れない支援ができていない。</p> <p>・コロナ対応3年目だったが、感染症対策等マンネリ化させることなく、常に配慮し、感染状況に応じた利用方法を随時検討、臨機応変に対応し、結果として、昨年度より来館者数が増加した。</p>	
次年度の目標・取組み等(施設所管課)	<p>・利用制限等が撤廃されることが想定されるため、より親しみやすいこども広場として多くの親子に利用してもらうための体制づくりやイベント等を計画していく。</p> <p>・こども広場が身近な相談場所として、子育てコンシェルジュ等スタッフがより自覚を持ち専門性を発揮していく。</p> <p>・1歳児の母親の就業率が年々増加しており、子どもが小さな頃から保育所等へ預ける家庭も増加している。こども広場が、貴重なふれあいの時間を過ごすための場となるよう、土日祝日を中心に働く保護者と子どものための支援をより充実させていく。</p>		

指定管理者自己評価

(1) 今年度の取組みに対する評価

① サービス向上に向けての取組み

コロナ禍での対応…

- ・1日を3クールに分け、完全予約制で開館し、イベント等は感染予防をしながら、参加人数を制限し実施した。また、感染状況により来館組数を段階的に増やし、コロナ禍でも来やすい状況を作るように工夫し喜ばれた。さらに令和5年3月13日からは、より利用しやすいよう1クールの時間を伸ばし2クールにし参加組数も増やし、利用者ニーズを捉え開館した。
- ・常に衛生管理に気を配り、来館者が安心・安全に利用できるよう細心の注意を払った。各クール終了毎に館内やおもちゃの消毒及び交換をして利用してもらった。
- ・臨時休業中、自宅で自粛している親子向けにFacebookやブログで情報配信。(令和5年4月1日～4月17日の間でリーチ数4151件)
- ・訪問型子育て支援事業は、コロナ禍で引きこもりがちな家庭への支援として利用家庭数が増加し、前年度の51家庭399回の訪問から今年度の訪問数は年間96家庭627回となり、訪問数で157%増となり、孤立した家庭への支援に努めた。
- ・休日マタニティセミナーは参加組数と時間を減らし、2クールで開催。内容も妊娠中を知っておいた方が良い内容や赤ちゃんを迎えるにあたり両親に必要な内容を中心に見直した。コロナ禍で産院でのマタニティセミナーが休止になっている中、感染予防をして開催したが、ニーズが高く毎月キャンセル待ちの状況だった。
- ・子育てコンシェルジュの充実…外出自粛等により子育てに関する不安が多く見受けられ、広場に来館できない母親からの電話による相談が増加し、前年度は109件、今年度は120件に上り、10%増加した。

危機管理体制の強化…

- ・権堂交番からの指導により、ドアチャイムを設置し入り口のドアを開館中も施錠し、来館者にはドアチャイムの利用を促し防犯対策をした。

受付手続きのICT化…

- ・入館システムを導入し、利用者登録をすることで予約時の電話受付での簡略化ができ、来館時も受付手続の省略化で受付時間が短縮され、遊ぶ時間やスタッフと身近に接する時間が増え利用者に喜ばれた。
- ・行政との連携
- ・家庭地域学びの課と共催で「絵本講座」を広場の会議室を会場に開催。申し込みと同時に予約がいっぱいになるほどの応募で、大変期待度の高い講座だった。(参加10組)
- ・県水道局(長野市水道局より依頼)に協力して「水道のはなし」を広場の親子向けに実施。身近な水道をめぐる話で好評だった。(参加17組)

② 業務の効率化に対する取組み

- ・コロナ禍で、来館者にとって安心・安全な場となることが一番の課題であり、来館者の人数制限・時間制限・来館回数の制限等を実施しながらの開館ではあるが、「また来たくような広場」を目指した。スタッフは常に消毒・清掃に留意した。
- ・子育てコンシェルジュを中心に相談業務を行っているが、相談内容が多岐にわたっているので、子ども総合支援センターなど他の機関との連携をより一層強化していきたい。

③ その他

- ・拠点の一場所多機能を活かし、妊娠期から途切れない支援ができている。利用者支援事業やホームスタート事業、長野市ファミリー・サポート・センター事業とも日頃から連携し、困っている家庭に身近な場所で適切な支援を届けられるよう配慮して活動した。また、「休日マタニティセミナー」「多胎児育児相談事業」等長野市との協働事業、「はじめてのながのウェルカム交流会」などを通して、広場利用者親子のみならず妊産婦家族、多胎児の家庭、長野市転入者等地域住民への支援ができ、より有効な事業とすることが出来た。
- ・利用人数制限の中、コロナの感染状況に合わせて来館人数を臨機応変に変動させ、利用者のニーズに合った開館方法になるよう随時検討し、前年度より来館者数の増加を見ることができた。
- ・コロナ禍3年目ということで、感染症対策等マンネリ化に陥らないよう、常に気持ちを新たに感染症対策にあたるようスタッフ間で申し合わせをした。

(2) 指定管理者業務実施上の課題

- ・コロナ禍で、来館者にとって安心・安全な場となることが一番の課題であり、来館者の人数制限・時間制限・来館回数の制限等を実施しながらの開館ではあるが、「また来たくような広場」を目指した。スタッフは常に消毒・清掃に留意した。
- ・子育てコンシェルジュを中心に相談業務を行っているが、相談内容が多岐にわたっているので、子ども総合支援センターなど他の機関との連携をより一層強化していきたい。

(3) 総合評価

評価基準

- 【A】計画や目標を大きく上回る 【B】計画や目標を上回る 【C】計画や目標どおり
【D】計画や目標を下回る 【E】計画や目標を大きく下回る

指定管理者
自己総合評価

A

① 評価理由

- ・コロナ禍での広場運営も3年目になり、いかにしたらより利用者ニーズに応えられるかを常に意識し、安全安心に利用してもらうことを大前提に感染状況に応じた広場の利用方法を検討し、臨機応変に変更した。
- ・アウェイ育児の核家族向けに「はじめてのながのウェルカム交流会」を3回実施。33組の参加があった。人数制限をして開催したが、同じような環境で子育てをしている家庭同士情報交換などができ、子育て家族の拠り所となっている。
- ・一場所多機能の活用…拠点型こども広場事業、ホームスタート事業、利用者支援事業、併設されている長野市ファミリー・サポート・センター事業等多機能を有し、それらを活用した支援を長野市子育て家庭福祉課、保健所、中央児童相談所等専門機関や主任児童委員協議会等地域連携の中で行い、子育て中の市民からの問い合わせも多く、地域の子育て支援の中核となり喜ばれている。
- ・利用者参加の子育て支援…地域の子育て中の父親を実行委員として「ながのわくわくパパ講座」4回開催。主体的にZoomによる講座を開催し、コロナ禍での父親の役割や普段の悩み事などをお互いに共有。子育ての当事者としての父親支援ができた。

② 次年度以降の取組み

- ・脱コロナでの広場の体制について
すべての制限がなくなることが想定され、来館者は初めてのことが多く戸惑う場面が想定される。親しみやすい広場としてより多くの親子に利用してもらうための体制づくりやイベント等を計画していく。
- ・相談業務の充実
コロナ禍でなかなか家から出づらかった親子は、子育ての悩みや疑問などが山積していると思われる。子育てコンシェルジュなどスタッフが、身近な相談場所としての広場の役割をより自覚し、相談者としての専門性を発揮していきたい。
- ・働く保護者への対応
1歳児の母親の就業率が年々増加しているなど、子どもが小さいうちから保育所等へ預け、働く母親が増えてきている。広場が、子どもとの貴重なふれあいの時間を過ごすための場となるよう、土日を中心に働いている保護者と子どものための支援を充実させていきたい。